

2 道徳教育の目標・道徳科の目標

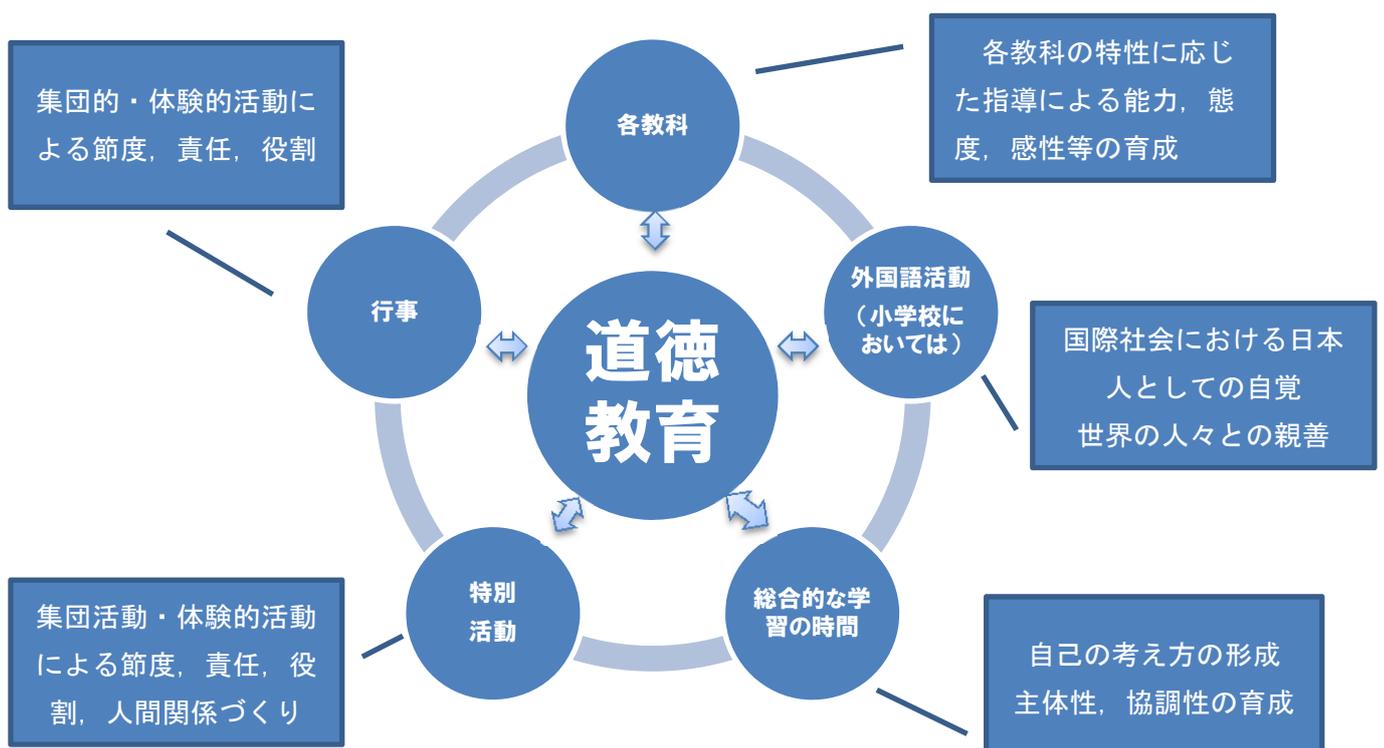
若手教師「道徳が教科化される背景は、こうなっているんですね。」
ベテラン教師「それじゃあ、道徳教育や道徳科の目標をふり返ってみようか。」

Q. 道徳教育，道徳科で大切なことはなんだろうか？

- A. 道徳教育の「道徳科を要として，学校の教育活動全体を通じて行うもの」という考え方は，今後も大事なこととしておさえられています。道徳教育を通して，児童生徒の道徳性を養うことが大切です。

(1) 道徳教育の目標

道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと。 【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編】



道徳教育の要である道徳科の目標を見てみましょう。

(2) 道徳科の目標

①小学校

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編】

②中学校

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編】

よりよく生きるための資質・能力を培うという趣旨を明確にするため、これまでの道徳的実践力を「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」と具体化しています。

道徳的実践力



道徳的な判断力

心情

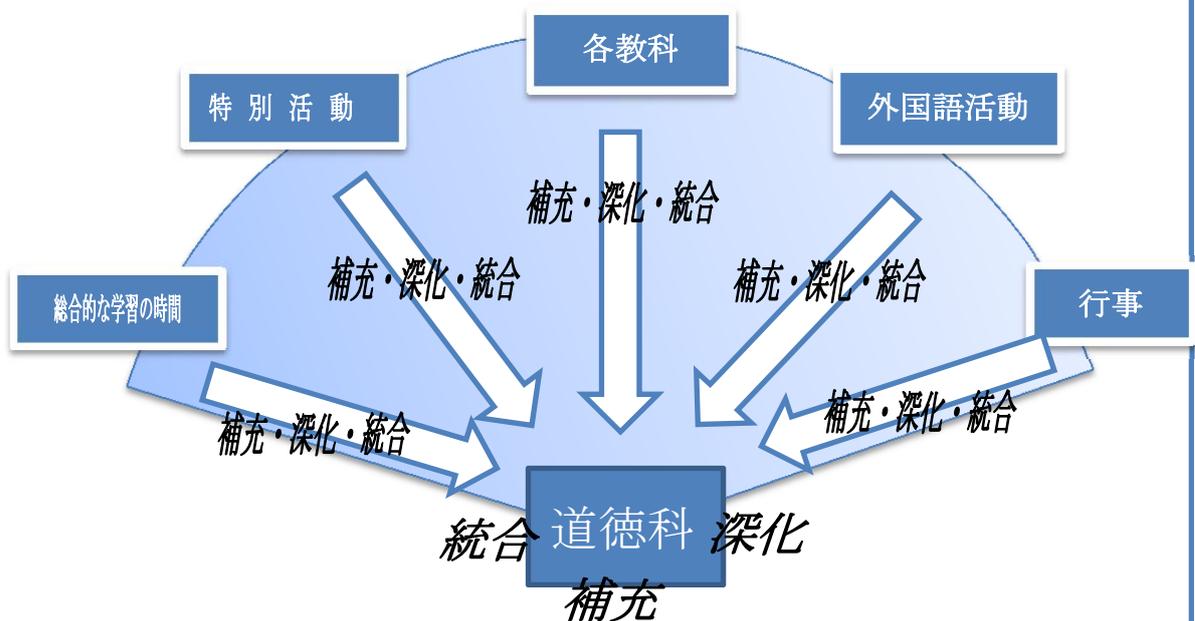
実践意欲と態度

COLUMN

道徳科の役割とは？

道徳科は、学校教育の様々な道徳教育の要として、学校教育全体で育てたい児童生徒の道徳性を補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を担います。

道徳科は、扇子の要ともいえます。



【十勝教育研究所研究紀要 No.209 P53】

それでは、子どもたちの道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養うために、どんな内容項目を指導していくのでしょうか。

(3) 内容項目

道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育における学習の基本となるもの。

内容項目のまとまりを、児童生徒にとっての対象の広がり意識して順序を改めており、内容項目の手がかりとなる「正直、誠実」などのキーワードを付けています。

A 主として自分自身に関すること

- 善悪の判断, 自律, 自由と責任
- 正直, 誠実
- 節度, 節制
- 個性の伸長
- 希望と勇気, 努力と強い意志
- 真理の探究

B 主として人との関わりに関すること

- 親切, 思いやり
- 感謝
- 礼儀
- 友情, 信頼
- 相互理解, 寛容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

- 規則の尊重
- 公正, 公平, 社会正義
- 勤労, 公共の精神
- 家族愛, 家庭生活の充実
- よりよい学校生活, 集団生活の充実
- 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
- 国際理解, 国際親善

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

- 生命の尊さ
- 自然愛護
- 感動, 畏敬の念
- よりよく生きる喜び

A 主として自分自身に関すること

- 自主, 自律, 自由と責任
- 節度, 節制
- 向上心, 個性の伸長
- 希望と勇気, 克己と強い意志
- 真理の探究, 創造

B 主として人との関わりに関すること

- 親切, 思いやり
- 礼儀
- 友情, 信頼
- 相互理解, 寛容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

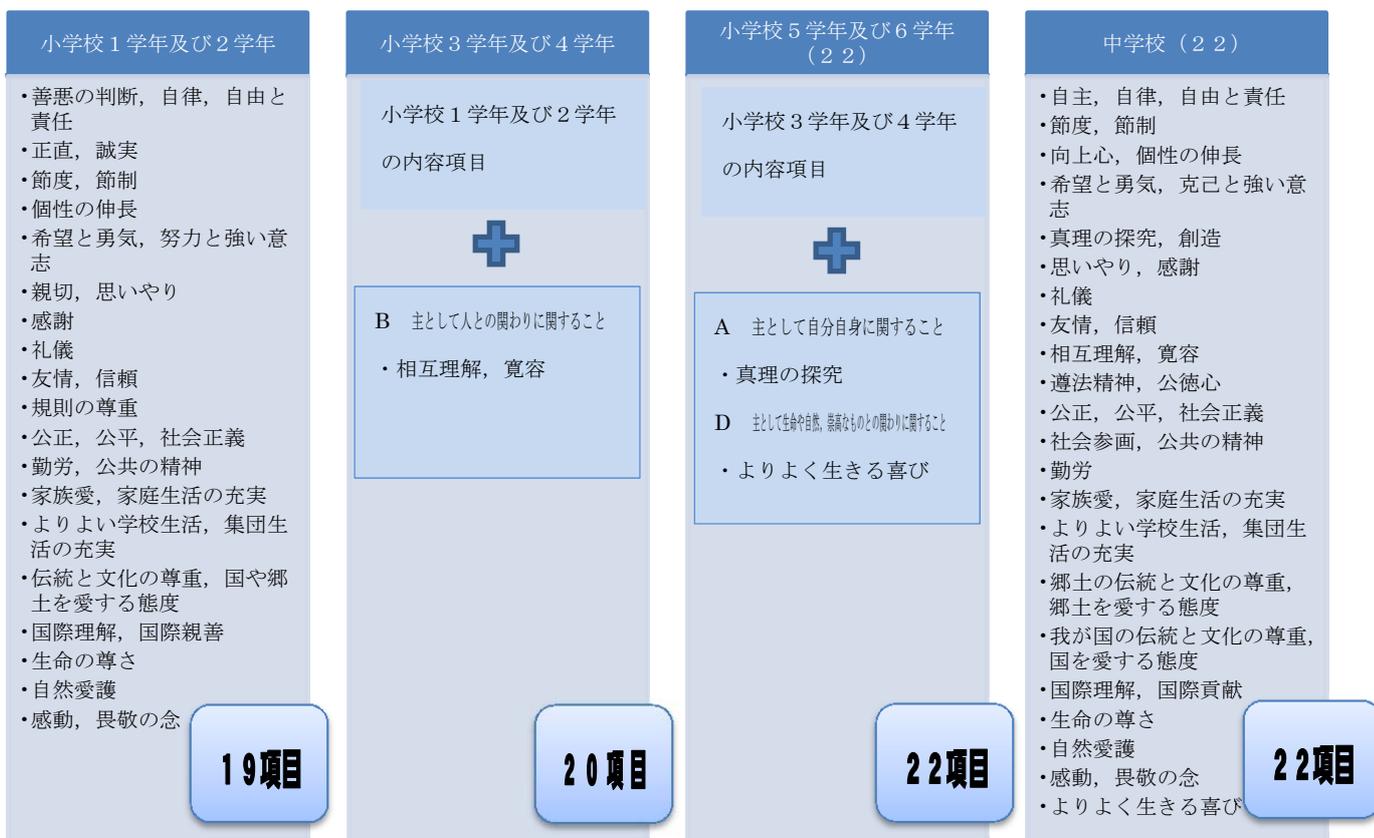
- 遵法精神, 公德心
- 公正, 公平, 社会正義
- 社会参画, 公共の精神
- 勤労
- 家族愛, 家庭生活の充実
- よりよい学校生活, 集団生活の充実
- 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度
- 我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度
- 国際理解, 国際貢献

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

- 生命の尊さ
- 自然愛護
- 感動, 畏敬の念
- よりよく生きる喜び

これら内容項目は、教育基本法第2条「教育の目的」に示されている内容を整理したものです。斜体は小学校追加内容。

これらの内容項目は全部で22項目あり，低・中・高・中学と取り扱う内容項目は異なっています。



また，児童生徒の発達段階に応じた内容項目の一貫性が分かるようになっています。

一例として…

A 主として自分自身に関すること

1 善悪の判断，自律，自由と責任

〔第1学年及び第2学年〕

よいことと悪いこととの区別をし，よいと思うことを進んで行うこと。

〔第3学年及び第4学年〕

正しいと判断したことは，自信をもって行うこと。

〔第5学年及び第6学年〕

自由を大切にし，自律的に判断し，責任のある行動をすること。

(中学校)

〔自主，自律，自由と責任〕

自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。